

上昇気流



令和3年

7月 5日(月)

【No. 13】

『残された日々を大切に…』

7月に入りました。1学期も、残すところあとわずかです。それと同時に、この校舎での生活も2週間あまりとなりました。60年の歴史を刻んだ伝統のある学校が移転することになり、一抹の寂しい思いも浮かびます…。みなさんは、この校舎で生活したのは1年と2か月ほどですが、ひばり中で3年間を過ごし、卒業していったたくさんの方々の中には、切ない思いをしている人もいることでしょう。みなさんの保護者の方々にも、ひばり中の卒業生がいらっしゃるのではありませんか…？



中学校3年間を、旧校舎と新校舎の両方で過ごすことになるみなさんは、ある意味とても貴重な立場と言えるかもしれません。旧校舎の締めくくりに関わり、新校舎の立ち上げに参加して、新しい伝統を築いていくという、とても大切な役割を担ってもらうことになります。まずは、夏休みに入るまでの12日間、この校舎で毎日の生活をしっかりと送ることを心がけましょう。そして、終業式には「大掃除」と、生徒会で企画された「黒板アート」を行います。“現役の”ひばり中生として、旧校舎で行う最後の取組です。一人一人の思いを込めて、参加しましょう。

ところで、ちょっと校庭に目を向けてみてください…。この校庭も、もうすぐ見納めとなりますが、緑が多くて広々としたステキな校庭ですね。でも、もう少しじっくりとみてほしいのです。何か気づくことはありませんか？

ひばり中の校庭に植えてある木々は、とても手入れが行き届いていると思いませんか…。例えば、テニス部はいつも前を通るので、見かけたことがあると思いますが、コートの入口の横にある植木は、とてもきれいに整えられていますよね。陸上部やバスケット部、バレー部のみんなが、外練習で利用する実技棟付近の植木も同様です。それから、池のほとりの中庭もきれいに手入れがされています。もちろん、自然とそうなるはずはなく、これらは用務主事の本橋さんたちが、毎日欠かさずていねいに仕事をしてくださっているのです。みんなが授業を受けている時間に、校舎内や校庭などの学校の至る所で、様々な作業を行っています。60年も経った校舎はかなり老朽化しており、所々で繰り返し修理が必要です。広い校庭には、たくさんのお木々が植えられています。みなさんが下校したあと、階段の手すりやドアノブなどの消毒も必要です。池にいる鯉ちゃんたちの餌やりだって大切です。そんな私たちが気づかないところで、仕事をしてくださっている方々に支えられて、今までこの校舎で快適に生活することができたのです。

7月でこの校舎の役割は終わり、近い将来、取り壊されることが決まっているそうです。でも、だからといって、校舎の修理箇所をそのままにしたり、木々の手入れを怠ったりなどすることなく、仕事をされている主事さん方の姿を見て、先日学んだ「進路学習」での話が浮かんできました。『何のために働くのか?』というテーマで、“老門番”と“茶店の老婆”の話を取り上げましたね。物語に出てくるお二人の、仕事に対する姿勢について、各クラスで意見交換をしました。その授業を通して、みなさんは様々なことを考えましたね。こうしてみると、近くにいる人たちのそのような姿からも、いろいろと学ぶべきことはあるのですね。



さあ、残りの12日の予定は次の通りとなっています。一日一日を大切に、この校舎での思い出を一つでも多くつくっていきましょう!

《7月の予定》

- 7日(水) ⑤道徳 道徳のまとめシート/教育相談アンケート
- 8日(木) ⑥総合 1学期のまとめ/キャリアパスポート/指揮者・伴奏者決め
- 9日(金) ⑥総合 夏休みのしおり/指揮者・伴奏者決め
- 12日(月) あいさつ運動開始/三者面談開始
- 19日(月) ④学活 学年集会<1学期のまとめ>
- 20日(火) 大掃除/黒板アート/終業式

「食べさせられませんから」 通話中に冷えたラーメン 若い店主の行動に驚き

ふらりと立ち寄ったあるラーメン店。こだわりのスープが売り物とか。まだ若い店主の元気な声が響く。ラーメンを注文した客の携帯電話が鳴った。込み入った内容らしい。客は話ながら店の外へ。出来上がったラーメンが席に置かれた。客はなかなか戻ってこない。しばらくして席に着いた客がラーメンに手を伸ばそうとした。その時、店主はさつとラーメンの器を引いて、湯気の立つ作りたてに取り換えた。驚く客に「お客さんに、冷たいラーメンは食べさせられませんから」

「2杯分の料金を」との申し出を固辞した店主。そのTシャツの背中に書かれた文字に目が留まった。「一杯入魂」。野球の「一球入魂」のもじりだろうか。なるほど。この店のラーメンがうまい理由が分かった。

仕事帰りに乗った、ある路線バス。停留所に止まるたび、運転手が車内にアナウンスを繰り返す。「週末の金曜日です。1週間、お疲れさまでした」

バスを降りるお年寄りには「寒いですから気を付けて」「自転車にご注意ください」。あえて言えば「一停入魂」か。学生たちが「ありがとうございました」と笑顔で降りていった。外の風は冷たいが、車内はなんだかホカホカと。

ラーメン店主とバス運転手。仕事は違っても、心を込めて最良のサービスを提供しようというプロ意識には通じるものが。料金はいつもと同じなのに、すごく得した気分にくれた。

〈2018年 西日本新聞〉